

平成 18年 7月 31日

千葉県知事 堂本 暁子 様  
千葉市長 鶴岡 啓一 様

J F E スチール株式会社  
代表取締役社長 馬田 一

## 改善対策の実施状況報告

平成 17年 2月 17日、及び平成 17年 3月 9日付けにて、千葉県・千葉市殿にご報告申し上げました改善計画書に関して、平成 18年 7月時点での改善対策の実施状況を添付書類のとおりご報告申し上げます。

昨年 4月から 3ヵ月ごとに活動の進捗を報告してまいりましたが、水質関連につきましては、上記の改善計画に沿って予定通りに改善を進捗させ、主要な対策を完了しました。また、弊社東日本製鉄所におけるマネジメント改革の取組み、および全社をあげた環境管理体制の抜本的な建て直しについても活動が定着し、本年 6月 4日には、これら一連の環境問題への取組みに関する住民説明会を実施し、地域の方々にもご理解をいただくことが出来ました。

今後ともよろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

## 目次

- 1 . 千葉地区における環境管理体制の抜本的建直し
- 2 . 本社における指導體制の強化
- 3 . ダスト精錬炉及びその関連施設におけるシアン対策
- 4 . 排水溝におけるその他の基準超過対策の進捗
- 5 . 県民・市民の皆様への情報開示

平成 17 年 2 月 17 日、及び平成 17 年 3 月 9 日付けにて、千葉県・千葉市殿にご報告申し上げた改善計画書に関しての改善実施状況についてご報告いたします。

平成 17 年 4 月 28 日、7 月 27 日、10 月 27 日、平成 18 年 1 月 31 日、及び 4 月 27 日時点にて、改善実施状況についてご報告申し上げておりますので、それ以降の進捗を中心にご報告申し上げます。

## 1 . 千葉地区における環境管理体制の抜本的建直し

環境管理部門の機能強化・幹部による指導の強化を中心とする体制の見直し、公害防止協定遵守への取組み、水質監視等の活動につきましては、既に報告いたしました体制・活動を継続しておりますので、今回の報告は省略させていただきます。

### ( 1 ) 環境マネジメントシステムの運用

今回の環境問題に関連し、東日本製鉄所(千葉地区)は、ISO14001(環境マネジメントシステム)の登録一時停止の通知を認証機関である日本検査キューエイ株式会社(JICQA)より受けておりました。

その後千葉地区では、抜本的な環境管理体制の立て直しをはかるとともに、製造部門の責任を明確にし、全社員の環境保全意識を改革してまいりました。

これらの活動が軌道にのったことから、平成 17 年 7 月 23 日、25 日及び 30 日に JICQA による再審査を受審し、平成 17 年 8 月 4 日付けにて ISO14001 の登録一時停止の解除通知をいただくことが出来ました。

本年は、6 月 7 日～9 日にかけて千葉地区の定期審査を JICQA にて実施いただき、活動の定着状況を確認いただきました。その結果、組織のトップまでの環境情報の共有化と組織的な対応が継続的に実施されていることをご確認いただき、環境マネジメントシステムが適切に運用されているとの審査チームの判断をいただくことが出来ました。今後も、引き続き、環境マネジメントシステムを活用した環境保全への取組みを継続してまいります。

### ( 2 ) 公害防止管理者資格取得推進

千葉地区では、平成 17 年から 3 ヶ年計画でエンジニア全員に公害防止管理者の資格受験を義務付け、平成 17 年度は 71 名が合格しました。

受験結果を踏まえ、平成 18 年 4 月 1 日より千葉地区全 12 工場に公害防止管理資格者を配置しました。各工場での環境保全活動の推進担当者として実施すべき業務内容を環境管理マニュアルに定めるとともに、定期的な環境管理部との連絡会議により、環境関連情報を共有化するとともに各担当者の活動をフォローしています。

今年度も引き続き受験者全員への社内講習受講を義務付けて、受験者に環境保全の知識と意識を定着させてまいります。

## 2. 本社における指導体制の強化

### (1) 本社監査部による環境監査

監査部担当者に外部コンサルタントを加えた体制でスチール各事業所、及びグループ会社の監査を継続中です。千葉地区は平成 18 年 5 月 18 日、6 月 5 日にそれぞれ 2 社ずつ、構内グループ会社の環境監査を千葉環境防災室と合同で実施し、管理体制の構築、保全状況について確認しました。

今年度は JFE スチール千葉地区の定期監査を平成 18 年 8 月と平成 19 年 2 月、また千葉地区を構成する一員としてのグループ会社監査については、平成 18 年 8 月、9 月に予定しております。

### (2) CSR (Corporate Social Responsibility) 会議の開催

平成 17 年 7 月より CSR 関連のテーマに関する最高意志決定機関として、社長を議長とする CSR 会議（事務局：CSR 室）を設置し、平成 18 年 6 月までに計 13 回 CSR 会議を開催致しました。平成 18 年 6 月は、リスクマネジメント・CSR 意識浸透等の部会の平成 18 年度活動進捗と今後の活動計画等を主に審議致しました。

### (3) 環境管理諮問委員会の設置

メンバーに、社外委員として下記の環境関係有識者を 2 名迎え入れ、活動を行っています。

松尾友矩氏（東洋大学学長）

寺島 泰氏（大阪産業大学人間環境学部教授）

これまでに、委員会を 3 回（平成 17 年 5 月 24 日、10 月 25 日、平成 18 年 2 月 21 日）、現地視察を 2 回（平成 17 年 8 月 31 日、平成 18 年 3 月 8 日）開催し、千葉地区環境問題への改善対策を主体に、弊社の環境への取組みについて

ご意見をいただいております。高アルカリ水対策およびシアン対策（主に土壌・地下水調査）については、社外委員からいただいた技術的なご意見も参考にしました。次回は平成 18 年 9 月に開催予定です。

#### （４）公害防止管理者資格取得推進

弊社のエンジニア全員（対象者は約 1,800 人）に公害防止管理者の国家資格試験受験を義務付けています。

平成 17 年の国家試験では全社で 206 名が新たに大気、水質等の公害防止管理者の資格を取得しました。平成 18 年も 700 名程度の受験を計画しており、7 月中に受験申し込み予定です。

### 3．ダスト精錬炉及びその関連施設におけるシアン対策

#### （１）西六号排水口におけるシアン対策

西六号排水口におけるシアンの基準超過の原因と改善計画については、『千葉市環境審議会環境保全推進計画部会 シアン対策専門委員会』における審議結果を受けて、平成 17 年 6 月 2 日に千葉県・千葉市殿に事前協議書を提出し、8 月 8 日に千葉県・千葉市殿の審議が終了しました。その後、水質汚濁防止法関連の届出を行い、8 月 22 日に改善工事に着手いたしました。

計画した改善工事が全て終了したことを受けて、平成 17 年 12 月 15 日に『シアン対策専門委員会（第 5 回）』ならびに、平成 17 年 12 月 26 日に千葉県・千葉市殿に現地査察を実施していただきました。査察の結果、計画通りに改善が終了したことを確認いただき、地域住民の方への説明会を実施した後に、稼動することをご了解をいただきました。

その結果、平成 17 年 12 月 27 日の住民説明会を経て、平成 18 年 1 月 5 日に試験稼動を開始し、3 月 20 日の『第 6 回シアン対策専門委員会』での試運転状況の評価・確認を経て、本格操業に入りました。

ダスト精錬炉及び関連施設ともに、安定した稼動を継続しています。シアン水処理施設の処理水中のシアン化合物濃度についても、シアン自動分析計と公定分析法により監視しておりますが、排出基準を満足し、問題の無いレベルで推移しています。

#### （２）ダスト精錬炉周辺の土壌・地下水の調査状況

シアン化合物によるダスト精錬炉周辺の土壌、及び地下水への影響について

調査するために、ダスト精錬炉周辺の表層部の土壌と表層水のシアン化合物を分析しました。調査の結果、ダスト精錬炉周囲の土壌表層部と表層水でシアンが検出されました。

深度方向の汚染状況を把握するために、ボーリング調査を実施しました。その結果、土壌・地下水ともに、地表面より約 7.8m の深さまで汚染が確認されました。また、ダスト精錬炉周辺の土質調査の結果より、深さ約 15m の位置に不透水層が存在し、今回の汚染がこれよりも浅い範囲に限定出来ることが判明しました。

更に、ダスト精錬炉周辺を汚染したシアン化合物の西六号線排水口への排出経路を確認するため、周辺の地下構造物を調査しました。この結果、従来から判明していた雨水によるシアン化合物の排出経路以外に、地下に埋設されている地下水集水用のポーラス管による排出経路があることが判明しました。

ダスト精錬炉周辺の土壌・地下水の浄化を地下水の汲み上げにより実施するための事前調査として、試験揚水井を仮設して適正揚水量等を調査しました。この結果を基に地下水揚水浄化を実施するため、現在事前協議を千葉県・千葉市殿と実施中でございます。事前協議完了後、揚水設備の設置等の工事を実施し、浄化作業を開始いたします。また、汚染範囲の外周部に観測井を設け、定期的にシアン化合物の濃度を確認する予定です。

### (3) ダスト精錬炉より発生したスラジ類の仮置場等の土壌・地下水の調査状況

ダスト精錬炉より発生したシアン化合物含有スラジ類をリサイクル目的で一時的に仮置きしていたヤード、及びシアン化合物を含有した排水の流路となっていた素堀側溝について、土壌表層部と表層水を調査した結果、調査範囲の一部にシアン化合物による汚染があることが判明しました。

固化ヤード及び素掘り側溝に関しては、シアン化合物含有スラジ類による汚染範囲を特定するための調査を実施中です。また、汚染範囲が既に特定できている原料ヤード内の仮置場からの排水系統について調査を実施し、排水中にシアンによる汚染が無いことを確認しました。更に、ダスト精錬炉から発生したホットサイクロンダストについても、原料ヤードまでの搬送経路および原料ヤード内での保管場所について、汚染の有無を追加調査した結果、原料ヤード内での保管場所の一部においてシアンによる汚染が確認されました。この地点については引続き調査を実施し、汚染範囲を確定する計画です。汚染範囲の確定後、土壌・地下水汚染についての対策について千葉県・千葉市殿のご指導を仰

ぎながら検討・実施いたします。

#### (4) 西七号排水口での基準値超過について

西七号排水口でのシアンの基準値超過の対策につきましては、原因となったダスト精錬炉発生スラジのヤード置きを中止し、スラジを造粒化し焼結工場に投入する設備を設置いたしました。

本改造計画に関しても、シアン対策専門委員会でご了解をいただき、その後平成17年6月21日に千葉県・千葉市殿に事前協議書を提出し、平成17年8月19日に審議が終了し、改善工事に着手いたしました。

平成17年12月に改善工事が終了し、ダスト精錬炉本体とともに、シアン対策専門委員会、及び千葉県・千葉市殿に現地をご確認いただき、平成18年1月5日に試験稼動を開始し、3月20日には『第6回シアン対策専門委員会』での試運転状況の評価・確認を経て、本格操業に入りました。

スラジ造粒設備は順調に稼動しており、造粒物は焼結工場にてリサイクルしています。

なお、造粒物取扱い時の作業性向上のため、事前処理場の設置を計画しています。平成18年6月13日に千葉県・千葉市殿に事前協議書を提出しており、審議手続き終了後に工事着手する予定です。

#### 4. 排水溝におけるその他の基準超過対策の進捗

資料1にて、排水溝におけるその他の基準超過項目についての原因と対策、及び現在の進捗を報告いたします。

#### 5. 県民・市民の皆様への情報開示

弊社ホームページにて、県民・市民の皆様へ、弊社東日本製鉄所（千葉地区）の水質管理に関するデータを平成17年3月分より毎月公開中です。

また、シアン対策専門委員会に提出いたしました調査報告書や改善計画書等についても、同様にホームページに公開しています。

平成17年6月15日には、近隣26町会の代表者に対して、一連の環境問題を説明し、現地をご視察いただきました。9月3日には、近隣の方に再度現地をご

視察いただき、ダスト精錬炉及びシアン水処理設備など関連施設に関する改善工事の進捗状況等についてご確認いただきました。

改善工事が完了した平成 17 年 12 月 27 日には、シアン対策専門委員会及び千葉県・千葉市殿のご指導のもと、地域の方々に対して改善工事の実施内容について説明会を開催し、合わせて現地をご確認いただきました。

さらに、平成 18 年 6 月 4 日には、広く市民の方々を対象にした環境問題の説明会と現地視察をマスコミに公開のうえ実施いたしました。近隣住民・市民団体の代表の方々、市議会議員各会派ならびに千葉県・千葉市の環境行政部門の方々にもご出席いただきました。さらに傍聴者として広く一般より参加を募り、約 30 名の方々にご参加いただきました。弊社からは、所長・副所長・環境管理部長・総務部長等、環境問題に関わる責任者が出席し、説明を行いました。

この場で、所長より環境問題への取組み方針、環境管理に関するマネジメントの変革について、環境管理部長よりダスト精錬炉シアン対策と改善効果について、現地確認を交えてご報告させていただきました。

ご出席いただいた皆様には、弊社の取組みについてご理解をいただくことが出来ました。この場で寄せられた貴重なご意見を今後の活動に活かしてまいります。

今後とも、地域の方に判り易い方法で、環境データの開示に努めてまいります。具体的には、平成 18 年 7 月より弊社ホームページにて製鉄所敷地境界における大気データ（ベンゼン、降下ばいじん）の公開を開始しました。また、所内の環境データを工場見学者の方々に常時見ていただけるような監視システムの導入検討を始めております。

このような活動を着実に進め、地域に開かれた製鉄所を目指してまいります。